

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>算数「数と計算」の除法の理解や公約数の求め方において課題がみられる。</p> <p><指導上の課題>教師主導の時間から、児童が主体的に学ぶ時間を多くするための授業改善。</p> <p><学習上の課題>児童が自ら課題を設定し、課題解決へ向け主体的に活動する力を高める。</p> <p><指導上の課題>児童が主体的に活動するために、教員は何の力をつけるための学習かを明確にし、学びを振り返る時間を設定し、自分にどんな力がついたかを明らかにする。</p>	⇒	<p>プリントやドリルパーク等を活用し、「数と計算」における反復・習熟に取り組む【毎授業開始時に実施】。その際、自らの学びの状況や課題を振り返り、目標を確認する時間を設定する【毎授業時間に実施】。児童が自分で答え合わせができるようにする。</p> <p>授業中に、児童が学びを振り返る時間を設定し、次の学びにいかせるようにする【毎授業時】。適切な課題を設定したり児童が主体的に課題を解決したりする時間を設定する【単元毎に児童が主体的に活動する時間を必ず設定】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>「目的に応じて書くこと」において課題がみられる。</p> <p><指導上の課題>各学年にみられる課題の改善に向け、授業での学びのポイント「じ・し・やく」の定着が課題である。</p>	⇒	<p>各教科の授業やじつくりタイムにおいて、「常体と敬体に注意して書く。」や「具体的な事例を挙げて分かりやすく説明する文を書く。」や「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。」等について、意図的に書く活動に取り組みする。【各教科の授業・じつくりタイム】</p> <p>学びのポイント「じ・し・やく」の「し」を意識した指導をする。また、学びの指標授業者チェックリスト項目「8」や「12」を中心に実践し、自己の授業を振り返る【各教科授業において単元毎に実施】。</p>

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語では、主語・述語の関係をつめる問題に課題がみられた。修飾と被修飾との関係と、主語と述語との関係についての理解の定着ができていない児童が多くみられる。文の構成を理解した上で正しく捉えることができていない傾向がみられるため、今後は文を文節に区切ることや新聞や本等実際の文章から主語を見つける学習に取り組んでいく必要がある。</p> <p>算数では、「変化と関係」領域において課題がみられた。分速の意味を正しく捉えられていない傾向がみられる。</p> <p>令和6年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいきたいか」における肯定的な回答の割合は、87.5%であった。これは、「課題解決型の授業に取り組んでいる成果と捉えている。児童の実態に即した主体的な学びとなるような授業を今後も継続していく。算数「数と計算」領域では通年で取り組んできた反復練習の結果、伸びがみられる。</p>
思考・判断・表現	<p>国語では、物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題に課題がみられた。物語から言葉や文を取り上げて書いているが、心に残った理由を記述していない児童がみられる。国語の学習において、「気持ちを表すカード」を用いて友達と交流を図る「協働的な学び」を取り入れていく。算数では、「図形」領域において課題がみられた。問題に合わせた立式ができていない解答が多く、問題の数値関係や何を答えるのかにおける理解の定着が図れていなかった。今後は、図形をつめることが難しい児童への支援としてデジタルコンテンツや具体物を活用し、理解につなげていく。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」における肯定的な回答の割合は87.5%であるが、「個別的な学習」と「協働的な学び」を意識した学習に取り組んでいきたい。</p>

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	<p>通年で算数「数と計算」の反復にドリルパーク・プリント等を活用して取り組んでいる。授業では、毎時間の目標を児童に明確に示し、振り返りの時間を定着させることで自己の成果と課題を意識させている。5月から9月のドリルパークの活用状況を見ると、主に低学年での利用率が上昇した。スクールタイムレポートを活用し、授業の振り返り入力を実施した結果、児童自身の意識づけや授業担当者の授業改善に役立っている。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>目的に応じた書く活動に通年を通して取り組むことができた。授業では学びのポイント「じ・し・やく」の定着へ向け、授業者がめあてや目標を分かりやすく示したり、学習に使う資料(本やインターネット)を選択できるようにしたりする等の実践を継続している。学びの指標授業者用チェックリスト12における児童解答を見ると、質問3と8における数値が特に高く、児童が試したり繰り返したりして思考する授業となってきた。</p>	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>通年で反復学習に取り組んできた算数「数と計算」では、複数年において上昇がみられた。しかしながら小数の除法や四則混合での計算等において課題がみられた。引き続き、全体的に課題がみられる問題の計算方法を確認し、プリントやドリルパーク等を活用しての反復学習に取り組んでいきたい。国語では、主語と述語の関係をつめる問題に課題がみられる学年が多い。文章を構成する語句が増える間違えてしまう傾向がみられる。主語や述語に対する理解が不十分であると考えられるため、類似問題や過去問題に取り組むことで理解度を高めていきたい。</p>
思考・判断・表現	<p>昨年度課題がみられた国語の「書くこと」に関する問題では、類似問題の経年での比較より、正答率の上昇がみられた。引き続き、様々な学習活動や学校行事等において、ねらいに応じて意図的に書く活動に取り組ませていきたい。算数では「図形」領域において各学年ごとに課題がみられた。図形の特徴や展開図の理解等、明らかになった課題を解決するため、各学年の指導内容を定着できるよう、引き続き具体物やデジタルコンテンツを活用し習熟に取り組ませていく。</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	<p>授業の始めにミニプリントやドリルパークを活用した算数「数と計算」の反復練習が習慣化した。さいたま市学習状況調査の結果に上昇がみられた学年が複数あった。教職員が学年の実態を把握し、課題がみられる問題を意図的に作成し取り組ませるようになり習熟を図ることができた。授業後児童がSSDBに学習の振り返りを入力する活動が習慣化し、児童が具体的に自己の振り返りを言葉に記入入力できるようになった。教師は児童の振り返りを基に理解度を確認したり次時の授業に活用したりすることができた。</p>
思考・判断・表現	B	<p>目的に応じた書く活動を通年で取り組んだことにより、さいたま市学習状況調査において、類似問題における昨年度比較で正答率の上昇がみられた。また、学びの指標アンケート(2回目)では、質問3と8の結果が上昇しており、児童自ら思考する授業に取り組んでいることがわかる。さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は平均して97.8%であり、取り組んだ成果が表れている。</p>

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	<p>国語の課題は、主語と述語の関係をつめる問題であることが分かった。次年度へ向けて、朝の短時間学習や授業の中で、主語と述語に関する類似問題や過去問題に重点的に取り組むことで、改善を図っていく。また、高学年においては、自己の考えが伝わるよう適切な図表を用いて書き表し方を工夫する活動に課題がみられたため、教科横断的な視点で、各教科の授業で図表等の根拠資料をもとに自己の考えをまとめる活動を重視していく。</p> <p>算数の課題は、「数と計算」における小数の除法や四則混合の計算であることが分かった。次年度へ向けて、各学年の課題改善へ向け、プリントやドリルパーク等を用いた反復学習に取り組む、全学年で改善を図っていく。</p>
思考・判断・表現	<p>国語の課題は、「書くこと」であることが明らかになっている。次年度へ向けて、様々な学習活動や学校行事等において、ねらいに応じて意図的に書く活動に取り組ませることで、改善を図っていく。また、高学年においては、自己の考えが伝わるよう適切な図表を用いて書き表し方を工夫する活動に課題がみられたため、教科横断的な視点で、各教科の授業で図表等の根拠資料をもとに自己の考えをまとめる活動を重視していく。</p> <p>算数の課題は、「図形」領域に各学年毎にみられた。次年度へ向けて、各学年の指導内容を着実に定着できるよう、図形の特徴や展開図の理解に特化した問題を用いての反復学習や、コンパスや分度器等道具の操作を重点に、授業改善に取り組んでいく。</p>

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)